



お伊勢参りの賑わいを取り戻したい

伊勢神宮・内宮の鳥居の前に「おはらい町」と呼ばれる通りがある。いわゆる門前町である。江戸時代、伊勢神宮には全国から多くの人々が「おかげ参り」に訪れていたが、第2次世界大戦後はその信仰も薄れ、モータリゼーションの発達もあり、おはらい町に寄る参拝客は激減、衰退していった。

昭和54年、「おはらい町」の衰退を危惧する、地元老舗企業「赤福」が中心となる住民有志が委員会を設置し、魅力あるまちづくりへの模索を始めた。こうした地元住民の活動を受け、伊勢市も条例、基金、保全計画を策定。県は、再舗装といったハード整備を行うなど、全面的にまちづくりに協力してくれた。そして、「おはらい町」は住民が望んだ伝統建築様式で統一された街並みへと変化していった。

そのような整備の起爆剤として、平成5年、「赤福」がおはらい町の一角に、中核施設「おかげ横丁」を開業した。現在「おはらい町」へ訪れる観光客は、年間20万人（昭和50年代）から400万人以上になり、休日には人が溢れる町へと変貌を遂げた。



橋川 史宏氏 (はしかわふみひろ)

昭和32年生まれ。伊勢市出身。一橋大学経済学部卒。松下政経塾1期生。昭和60年「おかげ横丁」の建設・運営に従事。平成11年松下政経塾勤務、平成14年三重県紀南振興プロデューサー（平成16年紀南ツアーデザインセンター長兼任）、平成19年より地域振興プロデューサー、平成19年より有限会社伊勢福代表取締役社長

取組主体 有限会社伊勢福 (<http://www.okageyokocho.co.jp/>)

設立年 平成4年(1992年)9月28日

住所 三重県伊勢市宇治中之切町52番地 電話 0596-23-8811 FAX 0596-23-8814

地域の課題

伊勢神宮の門前町「おはらい町」が衰退

地域の伝統を活かした街並みの保全

ソリューション

→ 伝統のおもてなし精神を活かし、地元老舗企業が「おかげ横丁」を整備【有限会社伊勢福の設立】

→ 伊勢造りで統一した街並みの整備【伊勢市まちなみ保全事業】

(地域の特徴)

伊勢古来の伝統建築様式（伊勢造り）と、参拝者への温かいおもてなしの気風が今も残るまち

「おかげ参り」とは、居住地の氏神様や神社にお願いしたことが伊勢神宮に届いて願いが叶った、そのお礼参りに伊勢神宮へ行くことを言う。伊勢では、全国から訪れる「おかげ参り」のお客様を、心からおもてなしすることが美徳だと考えられ、見返りを求めない無償のサービス＝「^{せきよう}施行」を行えば、自分達も幸せになると考える歴史があった。また、伊勢の町には、「神様のお住まいと同じ平入りでは恐れ多い」と、玄関を妻の部分に設けた伊勢特有の切り妻・入母屋・妻入りの「伊勢造り」の古い街並みが残されていた。

そこで、そのような伝統を活かした集客施設「おかげ横丁」を整備するために、有限会社伊勢福が設立された。

(取り組み概要)

伊勢造りで統一した街並みと、お伊勢参りの賑わい空間を再現

衰退著しかった「おはらい町」の活性化を目指し、昭和54年に地域住民が結成した「内宮門前町再開発委員会」で、伊勢の伝統建築様式「伊勢造り」で街並みを統一しよう、と意見がまとまり、翌年「内宮門前町再開発会議」（現在は「伊勢おはらい町会議」に名称変更）を結成、本格的に街並み整備に動き出した。

こうした地元住民の活動を受け、伊勢市は、昭和63年に「まちなみ保全条例」を制定、同年「まちなみ保全事業基金」も創設、平成2年「伊勢市内宮おはらい町まちなみ保全地区並びに同保全計画」を告知し「伊勢市まちなみ保全事業」がスタートした(平成21年9月末廃止。引き続き伊勢市景観計画の重点地区、都市計画法の景観地区に指定)。

現在、おはらい町通りには行き交う人々が溢れ、かつての賑わいを取り戻した。反面、歩行者と自動車が混在し、通行が難しくなってしまったため、平成21年から土・日・祝日は歩行者天国となった。



おはらい町の観光客向けではない店舗の改善後(銀行)



おはらい町の観光客向けではない店舗の改善後(床屋)



おはらい町の観光客向けではない店舗の改善後(郵便局)

地域の課題

おはらい町活性化のための計画(保全事業)の早急な実施と住民の理解が難しい

来客数が増えると、次第にどこにでもある観光地のようにになってしまう

ソリューション

住民も利用できる街並み保全事業実施のための資金の確保【伊勢市まちなみ保全事業基金の創設】

「おかげ横丁」の地域づくりのコンセプトを明確にし、最も伊勢らしく輝く地域を目指す【基本精神「神恩感謝」を定める】

(地域資源の発掘と活用術①)

「伊勢市まちなみ保全事業基金」を設立しおはらい町の無電柱化と石畳舗装化を行いさらに貸付制度も実施

平成5年の遷宮に間に合わせるため、平成2年に策定された「伊勢市内宮おはらい町まちなみ保全地区並びに同保全計画」に基づき、無電柱化工事(平成4年完了)と、道路再舗装(石畳)工事(平成5年完了)を行った。これらの事業は、伊勢市への寄付金を元に設立された「伊勢市まちなみ保全事業基金」(昭和63年)により行われた。

また、この基金は、住民が伝統様式「伊勢造り」再生のために行う住宅や店舗の建て替え、増築に対しての資金融資(3,000万円まで、年利2%)にも活用されている。この基金のおかげで商店だけでなく、一般の住宅も街並み景観統一への協力を得られた。平成21年には、事業対象戸数約56軒(約140棟)に対し、15件に貸付が行われていた。

この「伊勢市まちなみ保全事業」は街並みを、いわゆる凍結保存するためのものではなく、現在の生活を損なわずに再生する「古い街並みを新たに創出する」事業である。

(地域資源の発掘と活用術②)

神恩感謝の精神で、お客様が自然に来て下さる本物の品揃えを心がける

「おかげ横丁」を運営する有限会社伊勢福では、単に街並みを保全するだけではお客様に満足を提供できないと考えている。そこで、「おかげ横丁」の基本精神を「神恩感謝」(=謙虚な気持ちで今あるものをありがたいと感謝する)と定め、商品の誠実さ、本物の味にこだわり、一店舗ごとの個性を大事にしつつ、参拝客に喜んでいただけるサービスを続けることで、最も伊勢らしく輝く地域を目指している。



伝統建築様式=伊勢造りで統一された街並み



外灯、消防用ホース、自動販売機、ゴミ箱等も景観に配慮している



「神恩感謝」ののぼりが立つ「おかげ横丁」の入口

「おかげ横丁」ができるまで

(地域資源を観光事業に活かすまでのプロセス)

平成 5 年、伊勢神宮の参拝客がおはらい町へは立寄らない状態を打破するために、地元老舗企業「赤福」が参拝客をもてなすための施設として整備した。運営は「赤福」の子会社である有限会社伊勢福(平成 4 年設立)が行っている。敷地は、おはらい町の一角に立っていた「赤福」の本社ビルを取り壊し、その周囲の土地を買収することで得た。江戸末期から明治初年の風情をテーマに、伊勢の代表的な建築物を移築・再現した。

三重の老舗の味、名産品、歴史を体感できる「おかげ横丁」のソフト=店舗や物品は、多様な企業・団体の協力を得て導入した。

開業して 19 年経ってもお客様に支持されている要因は、周囲の自然風景に馴染む商家など身近な日本建築を再現し、美しく懐かしい街並みを創っていることと、「施行」というこの地域の伝統的な精神を活かした接客を心がけているためと考えている。

地域協働による成功というおかげ横丁の経験を踏まえ、赤福は平成 17 年に地元企業と合同で株式会社スコルチャ三重を設立。市内の県営サンアリーナ(スポーツ施設)の指定管理者として、伊勢の新しい観光客誘致に取り組んでいる。

(年表)

昭和 55 年(1980 年)頃	おかげ横丁の構想が生まれる
昭和 62 年(1987 年)頃	おかげ横丁の計画が具体化
平成 5 年(1993 年)	7 月にオープン



総事業費:140 億円
敷地面積:9,000 m²
テーマパークではないので年中無休、自由に入れる。飲食 10 店舗、物販 31 店舗、美術館・資料館 4 館 計 45 施設(28 棟)(平成 24 年 2 月現在)

(統計データ)

数字でみる「おかげ横丁」

伊勢神宮参拝者は、平成 5 年の第 61 回神宮式年遷宮後伸び悩んでいたが、平成 25 年の式年遷宮に向けた諸行事の開始により徐々に増加し、平成 20 年には平成 5 年の参拝者数を超えた。

平成 5 年 7 月に開業したおかげ横丁は、順調に入込客数を増やし、平成 22 年は、年間 441 万人が訪れた。

